

ゆでかぼちゃ の ぼうさいくんれん



ゆでかぼちゃは緑黄幼稚園に通う年長組さん。
ある日、ゆでかぼちゃは何だかとてもあわてた様子で
ドタバタと家に帰っていききました。

ゆ 「ただいま！」



ト 「あらお帰り、ゆでかぼちゃ。どうしたの？
そんなにあわてて」

ゆでかぼちゃは、トママにとびつき、あわてたそぶりで
話しはじめました。

ゆ 「あのね、今日幼稚園で＜防災訓練＞っていうの
があったの。先生が本当の地震はすっごくコワイ
って言ってたんだよ！」

ト 「・・・そうねえ、地震っていうのは本当にこわいもの
よ。私達の命をうばってしまうかもしれないわ」
その言葉を聞いたとき、ゆでかぼちゃは今にも泣きそう
な顔になりました。



ゆでかぼちゃは、

ゆ 「そっそんなのイヤ！ だったから、お家でも＜防災
訓練＞しよう！」

と言いました。ゆでかぼちゃは、地震のせいで大好きな
家族が死んじゃう事がとってもこわかったのです。

トママも、同じ事を考えていました。

ト 「よし、それじゃ早速、防災訓練をしましょう。
みんなー、一階に下りてきなさいー」

小松市立南部中学校 C



ドドドドドド……

みんながゆでかぼちゃのもとに集まって来ました。

全 「何、何、いったいどうしたの？」
と、問いかけてくるみんなに、ゆでかぼちゃは、これから
＜防災訓練＞をする事を説明しました。



ナ 「地震ねえ……。あまりあったことはないけども、確か
出口を作っておくために、ドアを早めに開けといた
方がいいとか言ってたのう……」

と、ナスバーさん。 お姉さんのキャロリーンも
キャ 「私は学校で、おさない、かけない、しゃべらない、
と習いましたわ。地震の場合おさない、かけない
が、大切ですわね」

キャロリーンに続いて、コーン兄貴も学校で習った事を
話しました。

コ 「僕は、机の下にもぐって頭を守れと言われたよ」



コーン兄貴が話し終わったら、次は根じいが話し出
しました。

根 「タンスや本棚を固定しておけば倒れずにすむん
じゃないのかね。くぎやらでトントントントンとな。
フオッフオッフオツ。」

ポテ父さんも

ポ 「ガラスが割れた時も考えないとなあ。窓のそばに
ベッドがあったら危険だし、ガラスが足にささったら
大変だからスリッパも用意しとかないとな」
と、意見をだしてくれました。



ト 「みんなが持ち出す物も決めないとね」
と、トママ。

みんなが次々にいろんな考えを出してくれます。

ゆ 「じゃあ、早くやっちゃおう」

ゆでかぼちゃは大はりきりです。みんなは、手分けして
タンスを壁にうちつけたり、スリッパを用意したり、ベッド
の位置を変えたりと、地震に備えて準備をしました。

小松市立南部中学校 C



ゆ 「よし、もうコレで完璧だ！」
 ポ 「こらこら、まだかんじんの訓練をしてないじゃないか」
 ゆ 「あ…っそっか」
 ゆでかぼちゃは、少しはずかしそうに笑いました。



と、その時！
 『ガタガタガタッ』と部屋がゆれたのです。
 な・根 「うわーっ！地震だあー！」
 コ・キ 「たっ助けてー」
 皆は、急にきた地震にびっくりして、パニックになってしまいました。
 コ 「死ぬー助けろーッ」
 ……コーン兄貴は人格が変わっちゃってます。
 （犬のバナナ犬も
 バ「バナナ！バナナ！」と、ほえています。）



ゆでかぼちゃは
 ゆ 「みんなおちついてっ」
 と、まるでお兄ちゃんになったかの様にしっかりして
 ゆ 「みんなっ、ひとまず机の下にもぐるんだっ」
 と、みんなを導いていきます。
 ゆでかぼちゃが、みんなを家の外にゆうどうしていた時、地震はし……んと、しずまりました。
 みんなもやっと落ち着きました。



みんなが
 全 「ゆでかぼちゃ、ありがとう。ゆでかぼちゃのおかげだよ。みんなが無事なのは」
 と、お礼を言いました。

ゆでかぼちゃは、照れくさそうに、
 ゆ 「そんなことないよ。そっそれよりみんながあわてず逃げれるように、もう一回防災訓練しよう！」
 と、言いました。

小松市立南部中学校 C



みんなが
全 「うん、しょうしょう」
と、言いながら家に帰って行きました。
それ以来、充実家族は3日に1回、防災訓練をしている
様です。